

2016年(平成28年)9月1日発行

発行者:大阪府釣りインストラクター連絡機構 本部:大阪府東大阪市中小阪1-5-20 tel06-6729-9485 fax06-6729-9457 (編集責任者:広報部 萱間)



海的环境変化に対応して楽しむ

来田 仁成 (大阪府釣りインストラクター連絡機構代表)

JOFI大阪会員のみなさま、温暖化、天候不順など自然環境がいままでの釣り人の予想を超える条件の中で数々の行事にご協力、いただき誠にありがとうございます。

昔に比べると回遊魚の群れが小さくなり時合が短くなってきています。アジ、サバ、イワシなどのサビキ釣りの指導をしておられて、そのこと気づかれたかたも多いと思います。

大阪湾の透明度も高くなり、それにしがつてだろうと思われませんがアジの場合は朝夕に限定されることも増えています。研究者の方に聞いたところでは、多分大阪湾の潮が排水浄化施設の稼働により貧栄養化したからではないかと思われる、それによって大阪湾の生き物の食物連鎖のバランスが崩れてきているのではないかということのようです。

夏場の高水温の原因にはさまざまな理由があげられ、一概に決めることはできませんが、われわれ釣り人にとっては、アオリイカの豊産、アカイカの湾奥移動、グレ、メッキ釣りの場の拡散などを考えれば悪い事ばかりでもないような気がします。

釣り人の習性としては、そのときその条件に合わせてそこにきた魚をどのようにして釣るか、その環境変化を素早くとらえ、対応する技術を考え出すその素早さが一般社会で暮らす人たちよりも、こと自然環境の観察と釣りに関してはかなり早いものと思われます。

数日前にある渡船店で聞いた話ですが、8月末に水温が30度を超す日が続いた後、落とし込みの釣り人たちは誰が言うでもなく一斉にイガイを使わずにフジツボを剥がしてエサにしはじめたということです。その後日を追ってフジツボの層が剥落しはじめたが、釣果にはほとんど影響なく、この夏の後半は中型のキビレチヌを主にマチヌまじりで二ケタ釣りがあたりまえのようになっているということです。

チヌばかりではありませんメッキが釣れるポイントも貝塚あたりまで北上しています。それもルアーやアジングなど新しい釣り方で楽しめるようになりました。

これまでわたしたちの波止釣り支度といえば4.5斤の振り出し竿が中心でしたが、いまや2本継ぎで先調子のアジングロッドとPE0.5号のラインを巻いたスピニングリールさえ車に積んでおきば思いついた場所で快適な釣りが楽しめる

ようになりました。

こうなれば、入門者の指導開始に当たって根本的な条件から変えていかなければならないでしょう。

さて私たちは、ここ数年海に向かって学術的な調査をするお手伝いをしてきました。大阪湾水質調査などもその端的な例といえるでしょう。そして大阪湾にすむ生き物たちの特定やその学名を覚えたりすることにも興味を持つてきました。そしてふと足元を見れば気がつかないあいだに、釣りを取り巻く自然環境がかなり変わり、その釣り方さえ大きくかわっていたわけです。

釣りを通じて市民のために、社会のために無償で働くそれがわたしたちのボランティア活動の基本だったはずです。ところがそのもっとも重要な釣りの部分を指導していく役割の錬磨が多少かけていたのではないかと、そんな気がしています。みんなで初心に戻って「指導マニュアル」を再検討し、次の時代を目の隅にいられたものに作り替えていく必要性を感じています。

終わりに私事ながら、昨年冬頃から次第に体調が落ち、皆さまにご心配をかけたこと、お詫びします。幸い原因が軽度なリウマチであったことが判明し、薬品を変えてもらったところ、大変元気になりました。住まいもこの夏に生駒山の中腹で坂の多い場所に変えてもっか坂道上りのトレーニング中です。

体力を復活させてみなさまと力を合わせ、ふたたび釣り人のあるべきボランティアの姿を求めてがんばりたいと思っています。

ご協力をお願いする次第です。



魚つり園にて「魚拓教室」(H28-4/30、7/10)

4月30日。大阪南港魚つり園護岸にて今年度初めての魚拓教室を開催しましたが、まったく暇でインストラクターも日向ぼっこで終わってしまいました。まだ少し早いのか？ 入場者もサッパリです。

7月10日、第二回目の魚拓教室。やっと小アジや小サバが釣れ出

しました。可愛い子供達と魚拓を作成しました。小さなお客様10名と保護者の方に、魚拓のとり方を説明しつつ、生き物の大切さ、釣れた魚の食べ方、魚拓による思い出作り、危険な魚について話しました。時々うなづいてくれる笑顔がとっても良いです。(報告 辻)



第20回 JOFI 大阪定時総会 (H28-5/22)

「第20回定期総会」が5月22日13時からヒューマンアカデミー大阪心斎橋校で開催しました。来田代表の挨拶ではじまり、議長に中河内支部服支部長の辻哲男氏を選出して議事を開始。第一号議案の「平成27年度事業報告」では、支部事業・個別事業を合わせて602名の協力があり無事故で終わることが出来たと報告がありました。第二号議案では広報誌の発行内容とホームページやネットラジオの訪問回数が報告。二回の臨時役員会を経て承認された第三号議案・第四号議案の会計報告について、収入と支出に予算と実績を併記し差額を計上することや、出張旅費規程実施が規定通り実施出来ていない等の質疑があり、本年度から実施することで了承されました。その他の議案はすべて満場一致で了承されました。(報告 物部)



フィッシングショー OSAKA (H28-2/5-7)

「2016 フィッシングショー OSAKA」は、2月5日から7日にインテックス大阪にて開催され、3日間で昨年を上回る53,489名の入場者がありました。JOFIメンバーも「船釣り教室」「波止釣り教室」「放流募金活動」「大阪湾環境美化運動」の4ブースに分かれ、延べ23人が活躍しました。各種の釣り教室では受付開始と同時に長蛇の列となる盛況振りでした。大釣協のブースでは放流募金に協力し

た方に「エビ釣り」を楽しんでいただきました。大阪府海域美化安全協会の「おさかなパッチ作り」は子供達に人気がありました。私たちは釣りの手ほどきをさせていただいていますが、ショーに入場された皆様が、釣り技術だけではなく、マナーやルール、自然を守るための知識などに併せて興味を持っていただければと思います。(報告 物部)



第9回大阪湾生き物一斉調査 (H28-6/5)

6月5日「第9回大阪湾生き物一斉調査」を堺2区生物共生型護岸と堺浜自然再生ふれあいビーチにて開催しました。早朝から釣りの調査も行いましたが、今回は珍しくアタリのみで釣果ゼロでした。当日朝まであいにくの雨模様で、急遽欠席されたご家族連れもありましたが、10時から実施した生き物調査では雨も上がり、フジツボ類の調査の他、カニ、貝、魚などを採取しました。調査の印象ですが、全体的には6年前から実施している人工共生型護岸のほうは、以前より生物の種類が少なくなり、3年前にできた堺浜のほうは種類も量も増えてきたようでした。詳しい調査結果については、9月22日、大阪市立自然史博物館「大阪湾生き物結果発表会」にて発表します。(報告 萱間)



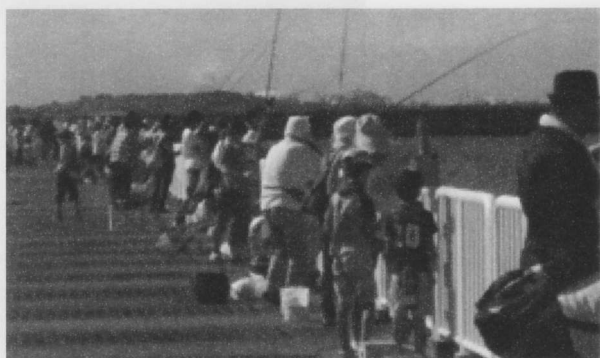
大阪南港魚釣り園で初心者の方へマナーやルール説明 (H28)

1年を通して、私たち JOFI 大阪釣りインストラクターは、毎日曜日の午前8時から12時まで、来園された初心者の方々に公園内で、釣りの危険性とライフジャケットの重要性、竿の置き方、それぞれの仕掛けセット方法などを指導させてもらっています。併せて、子供や車椅子を使用される方など、不特定多数の方が来園されていますので、トラブルを事前に回避して安全で楽しい釣りができるような説明と気配りを行っています。

釣りを始めてみたいと思っている人、釣りはしたいが一人ではなん

となく釣り公園に行きにくい人等、インストラクターが居りますのでお越しになって話しかけてください。来園された方が釣りの楽しさを知り、魚を通して自然の大切さを体感してもらい、この自然を次の世代まで引き継げるよう、皆さんと共に努力していきたいと考えています。

(報告 物部)



大阪湾稚魚放流 (H28-8/25)

日本釣振興会大阪府支部の大阪湾稚魚放流。暑過ぎる日が続いている今年の8月25日に、チヌ・アコウ・ヒラメの稚魚放流が今年も大阪湾で行われました。当日の参加者は全員で50名、日本ボーイスカウト大阪連盟泉州地区高石第3団の10名と一般参加者や協力漁船5隻、報道では毎日放送がテレビの取材に来られていました。

堺市の堺新港でセレモニーが9時30分から開催されました。支部長の橋本俊哉氏から放流事業の経緯、続いて大阪釣り団体協議会の塩見孝雄会長から挨拶がありました。

全員ですべての稚魚をバケツリレーにより車から船に積み替え、

それぞれ決められた船に乗り込み放流場所へ出発。放流場所に到着すると、報道関係の船が先着しておりカメラの準備に合わせてこちらにもバケツに稚魚を一杯入れて放流の合図を待ちます。合図があったので放流。バケツの中で元気がよい稚魚は飛びだし、船べりでビチビチと跳ねていましたが、子供たちは盛んを拾い笑顔で「大きくなってね」と言いながら大阪湾に放しました。(報告 辻)



今年も大阪湾の釣り場調査続行中 (H28)

大阪湾の3所で、毎月一回釣り場に設置されている救急救命ボックス点検とゴミの状況や立ち入り禁止区域へ釣り人の立ち入りがないか、近隣住民の人達とのトラブルはないか等、釣り人が安全で楽しい釣りができるように巡回調査しています。

救命救急ボックスには、海への転落者を助けるための、浮輪や縄梯子などの救命に必要な用具が保管されています。その縄梯子や浮

輪などが盗難されたり、ロープが切断されていないかを等を調査しています。自分が海に転落した時を考えると、悪戯は出来ないはずですがなかなか良くなりません。ライフジャケットの着用なども含めて釣り場を安全に管理する必要性を感じています。(報告 物部)



ボーイスカウトかわち地区釣り章講習会 (H27-10/18)

平成27年10月18日、大阪府泉南郡岬町淡輪にてボーイスカウトかわち地区釣り章講習会がありました。今回の釣り章応援協力は三度目です。座学と実釣ではサビキ釣りを行ない、釣る楽しみ、釣り上げた魚を美味しく食べる、魚の命の大切さなど伝えました。受

講生の感想では、釣針が結べるようになって良かった、また海釣りに行きたいなどがありました。(報告 清水)

